次世代郊外まちづくり通信

vol.10 特別号

2014年4月発行
編集・発行
横浜市・東京急行電鉄株式会社
［連絡先］横浜市建築局住宅再生課
☎045-671-4083

次世代郊外まちづくり通信は、「次世代郊外まちづくり」のさまざまな活動をお知らせし、地域の皆さまをはじめとして多くの方々に知ってもらうためのニュースです。

次世代郊外まちづくりは、２０１３年６月に「次世代郊外まちづくり基本構想」を策定し、良好な住環境とコミュニティの持続・再生が実現した郊外住宅地の将来像として「WISE CITY」を掲げ、様々な取組を進めています。

２０１３年度は、「次世代郊外まちづくり基本構想」に基づく実行計画である**８つのリーディング・プロジェクト**を推進しました。

詳しくは１～３ページをご覧ください

２０１４年度は、新たに**７つのリーディング・プロジェクト**に取り組みます。

詳しくは４ページをご覧ください

次世代郊外まちづくり リーディング・プロジェクト（2013）

1 住民創発プロジェクト ーシビックプライド・プロジェクトー

住民創発プロジェクトでは、自分のまちに愛着や誇りを持って行動する企画を、地域にお住まいの方やNPOをはじめとする活動団体、民間事業者の皆さまから広く募集し、横浜市と東急電鉄がその活動を支援しています。

昨年９月21日の第１回講評会、今年１月18日の第２回講評会を経て、15の企画が次世代郊外まちづくり住民創発プロジェクトに認定され、活動がスタートしています！

たま プライド

次世代郊外まちづくり
住民創発プロジェクト

中間報告会を開催しました

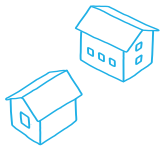
３月15日、たまプラーザ テラス プラーザホールにて「住民創発プロジェクト-シビックプライド・プロジェクト- 中間報告会」を開催しました。

住民創発プロジェクトの各団体から活動状況や今後の予定などの報告が行われ、講評委員や他の団体、会場に集まった方々からアドバイスや応援の言葉が送られました。

次のページに続きます。

2 住民の活動を支える仕組みと場づくり

多世代交流の促進や地域活動の「場所」の提供、さらには活動同士がつながるためのプラットフォームづくりなど、住民創発プロジェクトでの提案内容も踏まえながら、住民の活動を支える仕組みと場づくりの実現に向けた検討を行いました。



3 家庭の節電プロジェクトとエコ診断

地域住民に省エネ行動を呼びかけ、昨夏に実施した「家庭の節電プロジェクト」ではモデル地区内で 245 世帯、今冬に実施した「家庭の省エネプロジェクト」では、1,211 世帯に参加いただき、皆さまの省エネ活動により合計 65.8t の CO2 を削減することができました。(杉の木換算：約 4,700 本分)

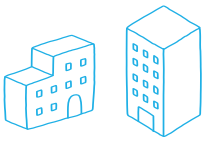
また、「家庭のエコ診断」では 5 回の診断会を開催し、121 世帯のご家族のエネルギー使用状況を診断しました。

4 まちぐるみの保育・子育てネットワークづくり

子育てしやすいまちづくりの実現を目指し、モデル地区を中心に保育・子育ての活動や施設、関係団体等の調査・ヒアリングを行うとともに、課題の整理などを行いました。

5 地域包括ケアシステム「あおばモデル」パイロット・プロジェクト

横浜市青葉区医師会や地域医療機関、介護事業者が参加し、高齢者が住み慣れた地域で自立した生活が続けられるように、在宅医療の充実と、医療・介護が連携した地域包括ケアシステムの実現を目的とした地域包括ケアシステム部会を立ち上げて検討を行い、地域包括ケアシステム「あおばモデル」構築に向けての報告書を取りまとめるとともに、パイロット・プロジェクトに取り組みました。



6 暮らしと住まいのグランドデザインの策定

2013年3月より有識者と横浜市、東急電鉄で立ち上げた「暮らしと住まい再生部会」において、基本構想のリーディング・プロジェクトの一つである、「暮らしと住まいのグランドデザイン　ーモデル地区 (たまプラーザ駅北側地区) 編ー」を策定しました。

グランドデザインは、モデル地区において多世代が住まい、活動し、交流し、働く場があるまちへと再構築していくための、モデル地区の住民、民間事業者、行政が共有するまちづくりの「目標」として、また、取り組みを進めるための「指針」として活用していきたいと考えています。

7 「コミュニティ・リビング」モデル・プロジェクト

―企業社宅などの土地利用転換時における土地利用誘導―

「暮らしと住まいのグランドデザイン」及び「建築性能推奨指針＜案＞」の内容を踏まえながら、コミュニティ・リビングの実現を目指し、モデル地区内の社宅の所有者等と相談・協議を行いました。

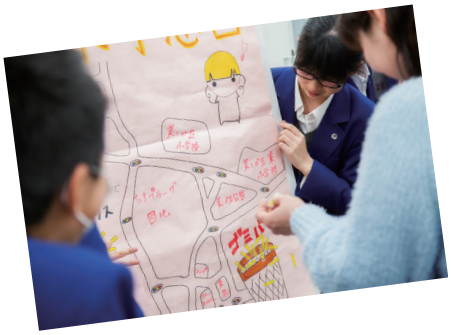
8 「次世代郊外まちづくり」建築性能推奨スペック策定

―建物や施設に求められる性能や機能、建築推奨指針づくり―

スマートコミュニティ推進部会を中心に、モデル地区を対象に、「次世代郊外まちづくり」独自の建築性能推奨スペックの検討を行い、「次世代郊外まちづくり」建築性能推奨指針＜案＞を取りまとめました。本指針（案）については、今後も内容の精査、既存制度との整合等を図りながら更新するとともに、指針（案）の活用方法について検討していきます。

※「暮らしと住まいのグランドデザイン」や「建築性能推奨指針（案）」等は、次世代郊外まちづくりホームページからご覧になれます。

「次世代郊外まちづくり シビックプライド ～美中プラン～」発表会を開催しました



美しが丘中学校では、昨年９月から３年生の社会科の授業の一環として「次世代郊外まちづくり学習計画」を授業に取り入れ、自分たちが地域にできることは何かを考えてきました。

そして３月７日の発表会では、「次世代郊外まちづくり シビックプライド ～美中プラン～」と題した１分プレゼンテーションとポスターセッションを行い、この半年間で学んだ成果を地域・保護者の皆さまに発表しました。

ポスターセッションでは、優れたアイデアに「いいね！シール」を貼り、シールの枚数が多かった３グループの代表がその後のパネルディスカッションに登壇しました。

パネルディスカッションでは、東京理科大学の伊藤香織准教授をゲストにお招きし、『これからの「たまプラーザのまちづくり」に期待すること』をテーマに、３グループのアイデア「ゴミ箱を増やしてリサイクルを促進する」「定期的に屋台市を開催する」「落ち葉拾いから始める」などを中心にディスカッションを行いました。

次のページに続きます。

次世代郊外まちづくり
リーディング・プロジェクト
（２０１４）

1	住民創発プロジェクト ―シビックプライド・プロジェクト―	2013 年度に認定された活動の支援を行うとともに、住民活動のネットワーク化と場づくりを行います。
2	地域のエネルギーマネジメントに向けた仕組みづくり	家庭の省エネプロジェクトの継続とフードロス・創エネルギーの促進などを通じ、地域のエネルギーマネジメントの実現を目指します。
3	まちぐるみの保育・子育てネットワークづくり	子育てしやすいまちづくりを目指し、保育・子育てに関わる様々な主体が連携・協働していくための検討を進めます。
4	地域包括ケアシステム「あおばモデル」パイロット・プロジェクト	安心して住み続けられるまちを支える医療・介護の連携促進と情報インフラのパイロットモデルを構築します。
5	「コミュニティ・リビング」モデル・プロジェクト ―企業社宅などの土地利用転換時における土地利用誘導―	モデル地区内の土地利用転換に伴う再開発を、民間事業者との連携・協働によるモデル事業として位置付け、コミュニティ・リビングの実現を目指します。
new 6	新たな地域移動モデル パイロット・プロジェクト	環境に配慮した小型電気自動車など、パーソナルモビリティをはじめとした郊外住宅地の新たな移動手段の検討を進めます。
new 7	公的資源の新たな活用の仕組みづくり	公園や遊歩道、学校など、公的資源をこれまで以上に有効に活用するための新たな仕組みづくりの検討を進めます。

※通信に掲載の各内容の詳細はホームページにて公開しています。

次世代郊外まちづくり WISE CITY

http://jisedaikogai.jp/

Web サイトはこちら

OPEN YOKOHAMA 横浜市　東急電鉄